



3Dプリンターで作られた製品を手に取る子どもたち

ファブホリデイ FAB HOLIDAY in 遠野 12月5日

ものづくりの楽しさを体感

体験を通してものづくりへの興味関心を深める同イベント(ファブテラスいわて主催)はあえりあ遠野交流ホールで開催されました。親子連れなど約70人が来場し、レーザー加工機でのオリジナルコースター作りやロボット操作などを体験。来場した木村智勝さん(遠野北小3年)は「ロボット操作や3Dペンを使うのが面白かった。難しかったけど集中できた」とものづくりの魅力を味わいました。



今作でキャストを演じる皆さん

第47回遠野物語ファンタジー旗揚げ会 12月8日

ファンタジー公演へ意欲高める

市民手作りの舞台・遠野物語ファンタジーの旗揚げ会はあえりあ遠野で行われ、関係者ら約30人が第47回公演に向けて士気を高めました。今作『きつねの絵筆』は、いたずらギツネと供養絵額の絵師らが織りなす笑いと感動の物語。菅原耕制作委員長は「文化の発展は人々の心を豊かにすると信じている。すばらしい舞台にして市民の皆さまに見せたい」と意気込みを語りました。(詳細は24頁へ)



家族にお祝いされるセツさん(中央)

ふれあいホーム小友でお祝い会 12月10日

小友町の伊勢崎セツさん100歳

セツさんが100歳の誕生日を迎え、家族や施設利用者・職員らが祝福。セツさんは「皆さんお祝いしてくれてありがとう」と感謝を伝えました。大正10年に小友町で生まれたセツさんは、16歳のときに同町の永一さん(故人)と結婚。家業の農業を手伝いながら、2人の子どもを育て上げました。現在は、孫4人・ひ孫6人・玄孫7人に恵まれ、同施設に通いながら自宅で穏やかに過ごしています。



100歳を迎えお祝いされたヤツヨさん

家族に囲まれ長寿を祝う 12月13日

松崎町の三浦ヤツヨさん100歳

ヤツヨさんの100歳を祝う会がご自宅で開かれ、家族がお祝いしました。釜石市出身のヤツヨさんは、22歳で同市の佐々木大太郎さん(故人)と結婚。大太郎さんが戦死した後、縁あって松崎町の貞助さん(故人)と結婚し、家政婦などをして5人の子どもを育てました。ヤツヨさんは「早くコロナが収束して、遠くの孫やひ孫に会える日を心待ちにしています」と話しました。

11月20日 「宮守魅力市」初開催!

「宮守の魅力感じて」青年会議所企画

宮守魅力市は、新町商店街周辺(宮守町上宮守)で初開催されました。家族連れなど約500人が来場。宮守に関係のある20店舗が出店し、採れたての野菜や飲食物、アクセサリーなどを販売しました。商店街も盛り上げに合わせ、ヘアカラー体験やスタンプラリーなどを展開。宮守総合支所周辺では、消防車・救急車の展示、重機体験コーナーなども開設され、たくさんの笑顔があふれました。小田島雅歩さん(宮守町宮守)は「コロナでイベントも少ない。子どもも楽しんでありがたい」と感謝を込めました。

魅力市は、宮守町の魅力発信とSDGsの推進、地域内循環型経済を狙い一般社団法人遠野青年会議所(小井口幹理事長)が企画。実行委員長の河野堅太さん(宮守町達曽部)は「子どもたちがたくさん来てくれて良かった。人の往来で経済が回り、商店街も賑わう。子どもが参加し体験することで郷土愛を育み、大人は企画が持つ力を感じ取ってほしい」と思いを語り、地域の活性化を願いました。

1_家族連れで賑わう商店街周辺のメイン会場 2・3_若手農家(宮守町達曽部)が育てる根ワサビやニンジンなどの販売も人気を集めた 4_ヘアカラー体験をする子ども 5_子どもたちに大人気だった重機体験



11月23日 明日の遠野の環境を考えるフォーラム2021

ふるさとの自然環境を守る

フォーラム(環境フロンティア遠野主催)はあえりあ遠野で行われ、市民約60人が環境保全の意識を高めました。標語コンクールや環境保全活動などの表彰後(受賞者は29名掲載)、遠野郷八幡宮宮司・多田頼申さんが「不思議の郷遠野」と題し講話。小学生らも活動事例を発表しました。事例発表した小野尾蒼空さん(上郷小6年)は「空気も木々もきれいな遠野が好き。自然を守りたい」と思いを語りました。



遠野の歴史や地理的要因にまつわる不思議を解説する多田宮司

11月27日 第21回遠野どべっこ祭り

遠野の魅力ぐいっと味わう

どべっこ祭りは遠野ふるさと村で開かれ、県内外から参加した14組36人が遠野の魅力を味わいました。特製の生どぶろくや附馬牛町婦人会による「ハレの田舎料理」などでもてなし。語り部の昔話や郷土芸能などの催しも好評を博しました。西岡良輔さん(北上市)は「初めての経験が多くておもしろい」と頬を緩めました。祭りは今後、1月22・23日、2月26・27日に40人限定・予約制で開催予定です。



勇壮な舞を披露した飯豊神楽衆と箸を休め見入る参加者